

カムイワッカ地区をはじめとする幌別以奥の課題について

1) 幌別以奥の自動車利用適正化対策

① 運用の担い手と費用負担

現行のマイカー規制はバス事業者の負担が大きく、利用者が減少すれば運行は難しい状況である。実際、過去3年間は9月の実施がなくなるなど、実施期間は短縮の傾向となっている。

② 規制期間の根拠

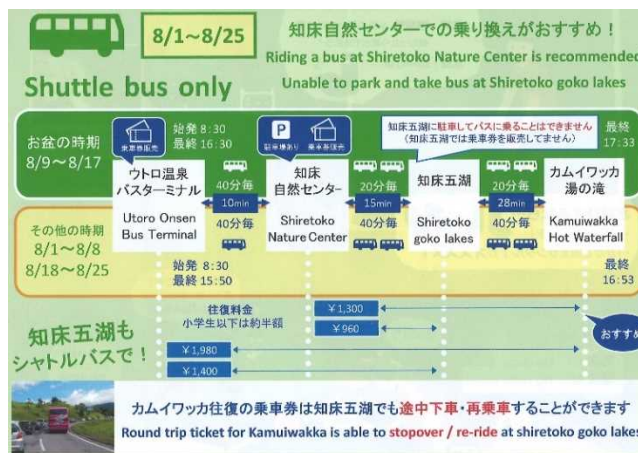
現在のマイカー規制設定の根拠は主に、カムイワッカ地区の駐車容量であり、現地の混雑対策を主眼として規制期間を設定してきた。一方、五湖地区の渋滞は解消されておらず、8月以外にも発生しているが、有効な対策がない。



知床五湖へ至る道路での交通渋滞

③ マイカー規制のシステムと情報発信

現行のマイカー規制は、知床五湖駐車場でシャトルバスの乗り換えができないにもかかわらず車両は通行できる、という分かりづらい仕組みが続いている。各利用拠点では多数のクレームが発生している。利用者への案内やシステムの説明が難しく、利用者の利便性低下や不満の一因となっている。こうした観点から、外国人利用者を含め誰でも理解でき、利用しやすいシステムと十分な情報提供が必要とされている。



マイカー規制期間の利用に関する案内（リーフレット一部掲載）

④ 外国人の増加

外国人利用者は一貫して増加しており、かつレンタカーが主要な移動手段となりつつある中で、マイカー規制に関する外国語での周知案内が不十分である。多言語やピクトグラムを用いた掲示看板の設置やWeb ページでの情報掲載など、外国人の利用を前提とした周知案内が求められる。



マイカー規制に関する案内看板

⑤ 知床自然センターの改修

マイカー規制の拠点となっている知床自然センターは、改修工事が実施されており、来年度からは駐車容量が大幅に増加するほか、課題の多かった駐車場の配置や誘導導線などが抜本的に改良される見込みである。また、バスの専用レーンが新たに設けられるなど、乗り換え拠点としての機能が強化される。

⑥ ヒグマ等野生動物の課題

ヒグマによる交通渋滞や危険事例が道道沿いで慢性的に発生しており、マスコミ等にも取り上げられるなど社会的な問題として注目が高まっている。一方で、野生動物を観察したいという利用者のニーズもあり、こうした野生動物との軋轢解消が課題となっている。

2) カムイワッカ湯の沢の利用

（カムイワッカ園地の魅力向上）

湯の沢地区は落石の影響により一の滝から上流の立入規制が長年続いている。このような要因から園地としての魅力が乏しい状況が続いており、利用者の滞在時間も短い。公園計画の改定といった背景から、園地の魅力向上が課題となっている。



カムイワッカ園地の利用案内（リーフレット一部掲載）

3) カムイワッカ～硫黄山登山口の道路利用

（カムイワッカ地区以外の利用拠点へのアクセス）

岩尾別地区では登山利用者の駐車スペースや縦走利用者のアクセスが課題となっている。